

—知的満足感を伴うおしゃれによる変化—

山岸 裕美子（群馬社会福祉短期大学）

【目的】超高齢社会を迎えるに当たり、寝たきりの高齢者を増やさないこと、そのためには高齢者がいつまでも活動的な日常生活を送れるような工夫をすることこそが求められる。前回の発表内容である「知的興味に基づく服飾品の制作を通しての働きかけ」を基盤とし、高齢者に対してアクセサリー作りとそれを身につけての“知的満足感を伴うおしゃれ”を提言・実践した。特に長年にわたって着ている衣服でも、新しい形での要素を与え装うことにより心的変化が生じる様子について、詳しく見ていくこととした。

【方法】群馬県内にあるケアハウス利用者に対し、絵画作品をブローチとして製作し、その作品を日常のおしゃれに生かす働きかけを行った。この際、精神的変化とそれに伴う身体機能の変化の様子を客観評価するために、ケアハウス利用者の生活形態に即した判断基準となる尺度表を作成し、利用者本人と職員の両側からの調査を行った。

【結果】長年着てきた衣服に好きな絵画の図柄のブローチを飾ることによって気分が変わったため、日常生活の広範にわたり意欲につながる行動の変化が見られるようになった。また特に、しばしば抑うつ的になってしまう利用者や、他者と意志の疎通をはかれずヒステリックになることのあった利用者に関し、それらが改善される方向での顕著な変化が見られた。